

の憎しみを忘れて、今後はどうすべきかをみんな考えてながらやっていくつもりだ。

市が一生涯倒みる

胎児性「コロニー」の計画も
の患者

市長、水
病で語
橋本保

橋本水俣市長は十日、国の水俣病についての結論が出たあとの患者救済策について「胎児性水俣病児は市が一生涯面倒を見る。そのため子どもたちのコロニーなど国につくってもらおう」など次のように語った。

現在水俣病患者の治療費は全額国と県、市三者で負担しているが、公害病に認定されれば、全額国にみてもらいたいと思っている。その場合、水俣病の治療には保険外のものでも投薬、治療できるような国に働きかける。また、湯の尻のリハビリテーションの中には満足など生活にぜひ必要な器具が保険の対象となっていないのも改めてもらいたいと思っている。

会社から出される見舞い金が、現行の生活保護法で収入とみなされる点もぜひ早く改めてもらうよう国に強く要請する。また、現行の傷害年金は、外傷だけを対象にしており、運動マヒの人は、適用等級もわからないありさまで、水俣病の基準を特別に設けてもらうようにしたい。

胎児性の患者は、市が一生涯面倒をみたい。そのために「コロニー」か「ナース・ホーム」のような特別の施設をつくり、付き添い婦をふやして、十分世話が行き届くようにしたいと思う。維持費、施設費を国でやってほしい。それにリハビリ内に特別学級をつくる計画を進めているが、さらにりっぱなものにするため、国の援助

を求める。患者の治療をさらに充実させるために治療の効果がどうかを追跡調査すべきだが、どうしたらいいかを国で考えてほしい。さらに従来の患者対策は医療面が主で、福祉対策が進んでいないことを反省、特別の職業訓練所などをつくる社会復帰の一助にしたい。とにかく、結論が出る以上、前